取扱注意
令和８年７月７日時点

logo

港区総合計画 MINATO ビジョン
―Toward the 2040s

MINATO VISION

―(キャッチフレーズ)―

（たたき台）

※本たたき台は令和 7(2026)年 7 月 7 日開催「MINATO ビジョン コ・デザイン会議」の意見交換のための資料です。
※掲載内容は各分野計画の検討状況等に応じながら、本年 10 月に予定している素案の決定に向けてブラッシュアップしていきます。
※冊子のデザイン化は素案公表後、計画決定までの間に行います。
※キャッチフレーズやロゴは素案公表時に区民投票を行い、決定したものを掲載します。

令和 8(2026)年 7 月
港　　区

港区＝「伝統と新しさが、出会い続けてきた場所」



港区には、時代を超えて受け継がれてきた歴史があります。
徳川将軍家の菩提寺となった増上寺などの寺社仏閣が多く残り、明治時代に日本初の鉄道が開業、昭和には東京タワーが建設されました。
地域に根差した文化を守りながら、社会の変化とともに、東京、さらには日本の中心となる国際都市として発展を続けてきたまちです。・飛行機と結ばれた充実した交通網に加え、メディアが集まり情報発信の拠点となっています。
博物館や美術館が文化を育み、企業や学校、病院が集うまちには、国内外から多くの人が行き交っています。
東京の中でも水辺に面しているのは、港区の特徴です。

台場や芝浦港南など、海や運河が都会の風景の中に広がり、四季の移り変わりを楽しめる公園もあります。
都市の利便性と自然の豊かさ、その両方を感じられる、これこそが港区の魅力です。

そして、港区には「人」の温かさがあります。
発展したまちの中でも、昔ながらの商店街や町会・自治会が息づき、人と人とのつながりが根付いています。

多くの外国人が暮らし、駐日大使館の半数以上が集まり国際性に富んだ港区は、多様な文化が調和しながら、ともに過ごしています。
この混ざり合う土壌が、人の温かさと新しい出会いを育んでいます。

受け継がれてきた歴史や文化を大切にしながら、新しさを受け入れてきた港区。
その歩みの積み重ねが、今の港区を形づくっています。

今の港区を大切にしながら、
今よりももっと住みやすいまちに。
そして未来へつないでいきたい。

そんな想いから、港区の新たなビジョンづくりが始まりました。



希望あふれる、港区の未来を切り開くために

将来を見通すと、全国的に人口減少が加速し、超高齢社会が進行していきます。
働く世代の人口減少により、労働力が不足する時代が到来します。
港区においても、地域コミュニティの衰退や首都直下地震をはじめとする自然災害の脅威など、都心特有の様々なリスクが待ち受けています。

こうした社会課題を乗り越え、明るい未来へ進んでいくために、2040 年代という将来を見据えて、たくさんの区民の皆さんと一緒に、希望ある港区の姿を描きました。

タウンフォーラム



港区に住み、働き、学ぶ皆さんと一緒にワークショップを開催し、将来像を描きました。
参加：97 人　開催：委嘱式、グループ会議 延 21 回、報告会

全区民アンケート



MINATO ビジョンに掲げる、2040 年代の港区の将来像を検討するため、理想とする将来の港区の姿についてアンケートを実施しました。
回答数：19,905 件

コ・デザイン会議



港区に縁があり、様々な分野で活躍する有識者等 11 人を委員として招き、座長である区長とともにシンポジウムを開催するなど、港区の将来について話し合いました。

みなと子ども会議



未来を担う小学生、中学生、高校生にワークショップ形式で将来像を考えてもらいました。
参加：19 人

オンラインディスカッション



いつでも、どこからでもチャット形式で意見を投稿できるオンラインディスカッションを実施しました。
コメント数：61 件

区民等意識調査



無作為に抽出された区民等を対象に、区の現状に対する満足度等についての調査を実施しました。
回答数：在住　676 件
　　在勤・在学　400 件

検討の経緯▸

二次元
Code

みんなで描いた港区の将来像

―今を引き継ぎ、社会課題を乗り越え、未来を創る。

「歴史と未来」「都会と自然」「地域と世界」が交差し、一人ひとりが自分らしく、幸せに暮らせるまち

区民の皆さんが描いた将来像は、港区を未来へ導く道しるべです。
不確かな時代だからこそ、理想の姿を港区に関わる全ての人と共有し、
実現を目指して前に進んでいきます。





歴史と未来
新しい風が吹くまち

これまで大切にしてきた歴史や文化を礎に、時代の変化を受け止め、先端技術を活用しながら、新たな価値を創造し、日本有数の都市として新しい風を巻き起こしています。
人々が出会い、アイデアが生まれ、暮らしが豊かになっていく。
次の世代へとつながるこのサイクルが、港区を明るい未来へといざなっています。






都会と自然
美しく心やすらぐまち

誰もが魅力を感じる都会でありながら、そこには心が穏やかになる居場所があります。
輝き潤う水辺の景色や木漏れ日が差し込む公園。
まちがデザインされていく中で、水や緑が彩を織りなしていく。
美しい都市とともに、自然を身近に感じながら、心癒されるやさしい日常を過ごしています。





地域と世界
みんなが支え合うまち

港区には、暮らす人だけでなく、働く人や訪れる人も多く集い、にぎわいを見せています。
年齢や国籍に関係なく、世界中から集まった人同士が交流し、分け隔てなくつながっています。
互いに助け合い、支え合う。
多様性を受け入れる包容力と思いやりの心が、地域や世界を超えて広がり、誰もが安心して暮らせるまちになっています。




これまでの歩みを大切にしながら、
社会課題を乗り越え、
新しい未来を創っていく。

港区という輝く舞台で、一人ひとりが自分らしく、
幸せに過ごせるまちが実現しています。

港区が大切にしていく想い

理想の未来を実現するためには、想いを一つにすることが不可欠です。
誰もが幸せを感じられることを目指し、
港区に関わる人たちが協力し合いながら歩みを進めていきます。

一人ひとりの幸せを実現する

人々の境遇や立場は様々です。
そのような中でも、一人ひとりの気持ちや考えを大切にしながら、
人を思いやる心と地域のコミュニティを育んでいきます。
人と人との絆を紡ぎながら、子どもから大人まで港区に関わる全ての人が幸せを感じられるまちを実現していきます。

地域のみんなで未来をつくる

港区には、地域に想いを寄せる、たくさんの人たちがいます。
区民をはじめ、働く人や学ぶ人。
そして、企業や学校、ＮＰＯ、町会・自治会、商店会など。
港区という輝く舞台で、それぞれが可能性を最大限に発揮し、
港区に関わる人が手を携えながら、一緒に未来をつくっていきます。



目次　－CONTENTS

1　未来への道しるべ　ＭＩＮＡＴＯビジョン……15

・ＭＩＮＡＴＯビジョンで未来への道筋を示す……16

2　未来を考えるために「今」の港区を知る……21

・港区　-Minato　City……22

・多彩で魅力あふれる５つの地域……26

3　明るい未来を切り開くために　2040 年代を見据える……37

・社会変化を先読みし、課題を乗り越える……38

4　2040 年代に向けた「政策」……43

（1）　子ども・子育て分野……44

（2）　福祉・保健分野……54

（3）　街づくり分野……68

（4）　環境・リサイクル分野……84

（5）　防災・危機管理分野……96

（6）　産業・地域振興分野……110

（7）　教育分野……126

（8）　人権・共生分野……144

（9）　行政経営分野……152

5　社会課題の解決を先導する「リーディングプロジェクト」…165

（1）　少子化対策プロジェクト……166

（2）　人口変動対策プロジェクト……168

（3）　危機対策プロジェクト……170

（4）　水辺価値向上プロジェクト……172

（5）　DX 推進プロジェクト……174

6　アクションプラン……177

資料編……211

・港区基本構想及びこれまでの港区基本計画策定の推移……212

・MINATO ビジョン策定経過のあらまし……213

・MINATO ビジョン　コ・デザイン会議……215

・MINATO ビジョン・タウンフォーラム……216

・区民意見の募集 ……218

・政策評価……220

・計画素案に対する意見募集……221

・SDGs との関係……222

・関連計画等一覧……224

1　未来への道しるべ
ＭＩＮＡＴＯビジョン

ＭＩＮＡＴＯビジョンで未来への道筋を示す

これまで港区は、平成 14(2002)年 10 月に策定した「港区基本構想」が掲げる将来像「やすらぎある世界都心・MINATO」の実現を目指し、区政運営を推進してきました。

策定から約 25 年の間、区役所・支所改革による総合支所中心の区政運営への転換をはじめ、みなとモデル二酸化炭素固定認証制度の創設や待機児童ゼロの達成、児童相談所の設置など、区民に寄り添いながら、社会課題に対して先駆的に施策を展開してきました。

しかし、時代が進むにつれて、新たなテクノロジーが人々の暮らしを便利で豊かにする一方で、東日本大震災の発生や新型コロナウイルスの感染拡大など、日本社会を揺るがす出来事も起こりました。

さらに、少子高齢化や労働力不足、国際競争力の低下など、区を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした激動の時代を乗り越えるためには、「港区基本構想」をアップデートし、更なる先を見据えた視点から区政運営を未来へと推し進めていく必要があります。

その新たな未来への道筋を示す羅針盤、それが「MINATO ビジョン」です。

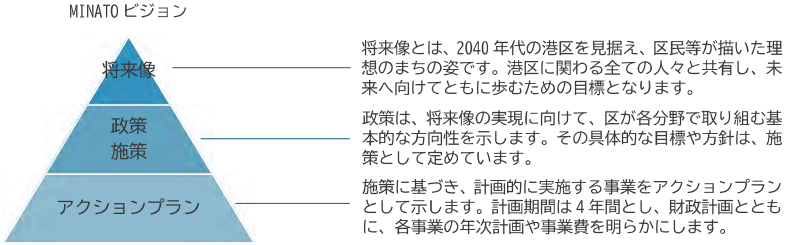
さらに住みやすく、魅力あふれる港区を築き上げ、次世代につないでいきます。

位置付け：港区の最上位の総合計画

MINATO ビジョンは、港区の最上位の構想・計画となるものです。

地域に関わる全ての人々の目標となる将来像や、その実現に向けて区が取り組む基本的な方向性を示す政策・施策、複数年度かけて取り組む計画事業を示す総合計画として位置付けます。

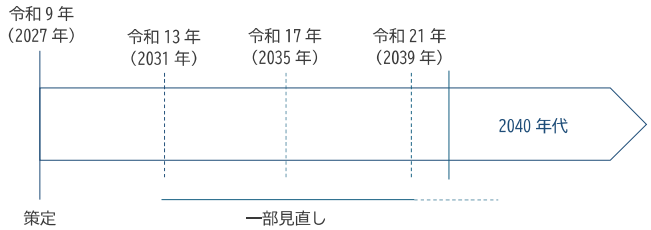
各分野の計画策定や予算編成など、区が進める全ての取組は MINATO ビジョンに基づいて進めていきます。



目標年次:2040 年代

目標年次は 2040 年代です。

時勢を捉えながら取組を推進していくため、4 年ごとに計画内容を見直します。
将来像や政策など、2040 年代まで一貫すべき普遍性の高い事項は変えず、施策の内容など、短期的な視点から社会情勢等を踏まえて変更すべき点やアクションプランを改定します。
政策・施策の指標を活用した行政評価を通じて課題を把握し、その結果を PDCA サイクルに反映することで、将来像の実現に向けた取組を継続的に改善しながら、着実に推進していきます。



Point:計画の仕組みを進化

これまでは、「港区基本構想」で将来像を示し、「港区基本計画・港区実施計画」で実現に向けた政策・施策・事業を示してきました。

しかし、それぞれを別の冊子として作成してきたことから、年数が経過するにつれて、基本構想の認知度は低くなり、基本計画との連携が十分に図られないといった課題がありました。

そのため、MINATO ビジョンは、単に「港区基本構想」を改定するだけでなく、「港区基本構想」と「港区基本計画・港区実施計画」を一体化した新たな総合計画として策定しました。

さらに、MINATO ビジョンの実効性を高めるため、各地区の方向性を示す「地区版計画書」、行政経営の方向性を示す「港区行政経営方針」、デジタル化を進めるための「港区 DX 推進計画」についても MINATO ビジョンに一体化することで、これまで以上に一貫した区政運営を可能としています。

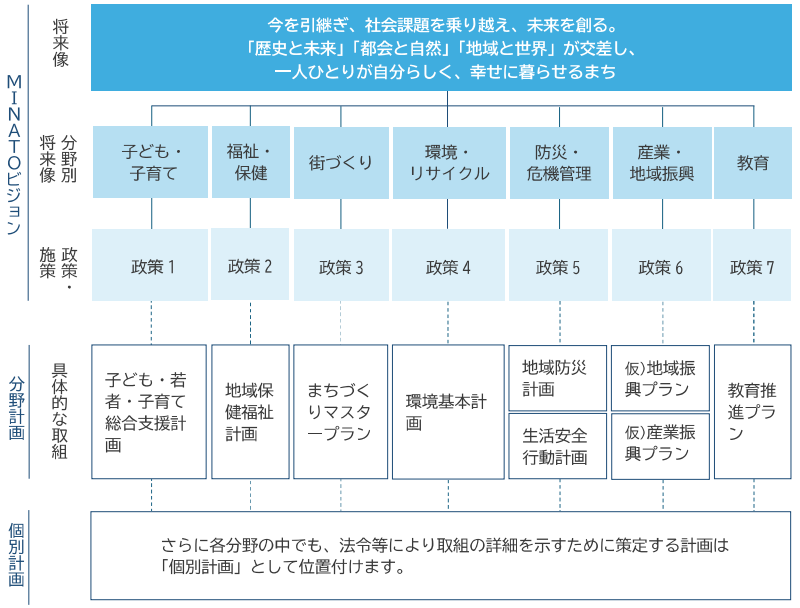
また、MINATO ビジョンは、地方版総合戦略として必要な事項を包含し、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく地方版総合戦略に位置付けます。あわせて、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえ、港区の特性を生かした取組を推進します。



Point:区全体の計画を連動

これまで、区の計画体系は、「港区基本構想」「港区基本計画・港区実施計画」に加え、各分野の詳細な取組を示す「個別計画」の三層構造としてきました。
それぞれの計画で詳細かつ丁寧に内容を示してきましたが、計画間で重複する記載があり、区民からは「ページ数が膨大で読みづらい」といったご意見も寄せられていました。

こうした課題を踏まえ、MINATO ビジョンの策定に伴い、計画体系を再構成し、各分野の最上位の計画を「分野計画」とし、それ以外を「個別計画」として位置付けました。
MINATO ビジョンでは将来像・政策・施策を簡潔に示し、「分野計画」では具体的な取組を明らかにすることで、分かりやすく体系的な計画構造へと再編しました。



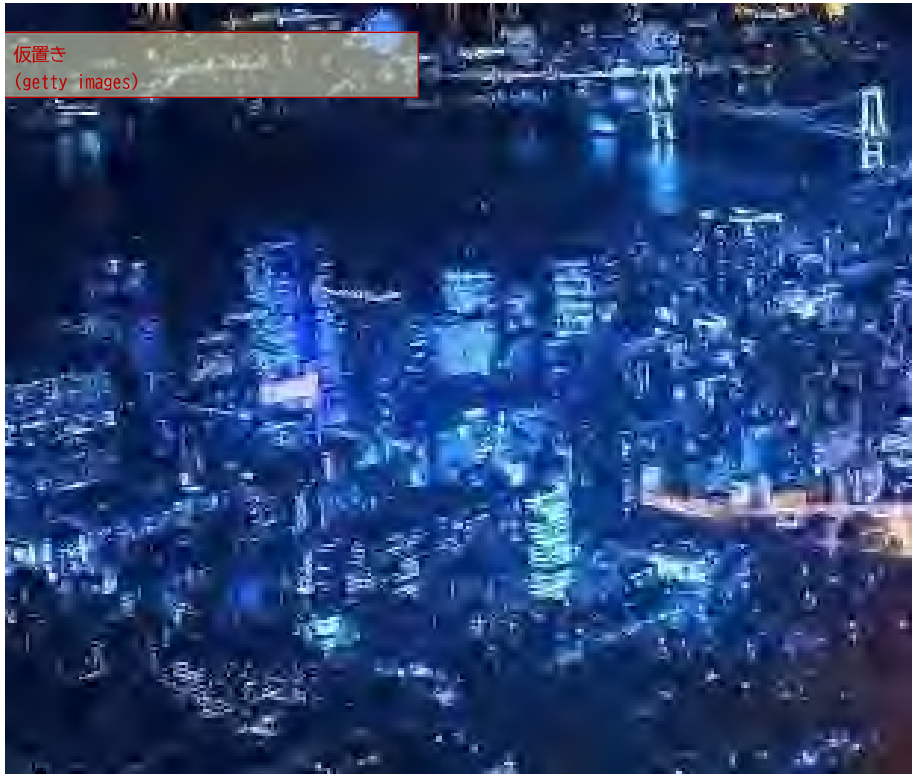
二次元
Code

港区の計画一覧▸

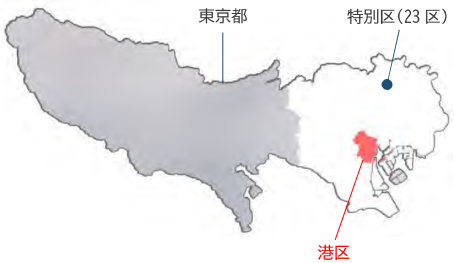
２　未来を考えるために「今」の港区を知る

港区　-Minato City

将来像の実現に向けた取組を考えるため、「今」の港区の姿について見ていきます。



地勢・人口



人口　270,458 人　　面積　20.36 ㎢

※令和 8(2026)年 6 月 1 日時点

港区は、東京都のほぼ南東部に位置し、東は東京湾に面する臨海部と内陸部をあわせ持つ地域です。

面積は 23 中 12 番目の広さを有し、武蔵野台地と低地からなる起伏に富んだ地形により、坂の多いまち並みが形成されています。

人口は約 27 万人で、23 区中 17 位の規模となっています。



個性と魅力あふれる「５つの地区」

港区は、「芝」「麻布」「赤坂」「高輪」「芝浦港南」の５つの地区ごとに、地域の特性を生かしたまちづくりを進めています。

各地区に総合支所を設置し、単に窓口で手続きを受け付けるだけでなく、地域の皆さんと一緒に地域課題の解決や魅力の向上に取り組んでいます。

デジタル技術の活用なども進め、サービスの質と効率性の向上を図るとともに、将来にわたって安心して利用できる持続可能な区役所づくりに取り組んでいます。



区役所・支所改革の取組▸

二次元
Code

データで見る「港区」

たくさんの人が働き、学びに訪れる

■昼夜間人口

昼間人口
972,673 人　都内 1 位

夜間人口
260,486 人

昼間人口は夜間人口の約 3.7 倍

※総務省「令和 2 年国勢調査」

多くの外国人が暮らし、国際性を身近に感じられる

■外国人人口

23,923 人

約 11 人に 1 人(約 8.9%)が外国人

※令和 8(2026)年 6 月 1 日時点

■大使館

79 か国/国内 158 か国　全国 1 位

※区内は令和 8(2026)年 6 月 1 日時点
※国内は令和 7(2025)年 12 月時点(外務省ホームページ)

訪れたくなる、にぎわいにあふれている

■飲食店数

飲食店数
15,938 店

※令和 7(2025)年 3 月 31 日時点

■ホテル・旅館客室数

32,156 室　都内 1 位

※令和 7(2025)年 3 月 31 日時点(東京都「福祉・衛生統計年報　令和 6 年度」)

交通アクセスが便利で、島しょや日本全国につながる

■鉄道

33 駅 17 路線

■新幹線

品川駅－博多駅

※山陽新幹線方面へ直通運転の場合

■舟運

竹芝－伊豆諸島 小笠原諸島

子どもを生みやすく、育てやすい

■合計特殊出生率

1.18　23 区中 2 位

※令和 6(2024)年時点(東京都ホームページ)

■年少人口

35,955 人

総人口比 **13.3%**

※令和 8(2026)年 6 月 1 日時点

■待機児童

0 人

日本トップクラスの経済力を生み出している

■事業所数

41,049 事業所　都内 1 位

※令和 3(2021)年 6 月時点
※総務省「令和 3 年経済センサス-活動調査報告」

■付加価値額

約 **65 兆円**　全国 1 位

震災時の帰宅困難者対策の強化が課題

■首都直下地震の被害想定

最大深度
7

死者数
127 人

帰宅困難者
127 万人以上　23 区中 2 番目

※都心南部直下地震　冬・夕方、風速 8m/s
※東京都「首都直下地震等による東京の被害想定」(令和 4(2022)年 5 月)基に作成

都心の中でも緑が多い一方で、CO_2 排出量が高い

■緑被率

22.6%　23 区中 3 位

※令和 3(2021)年 6 月時点
※順位は令和 7(2025)年 4 月 1 日時点

■CO_2 排出量

3,022 千 t-CO_2　都内最多

※令和 5(2023)年度時点
※ECO ネット東京 62 ホームページ

多彩で魅力あふれる 5 つの地域

芝地区



芝公園から見た景色

芝地区は江戸時代に東海道が整備されたことから発展し、今でも交通の要衝です。
多くの駅と鉄道網を有しており、商業地、飲食店街、ビジネス街としてにぎわいを見せています。



新橋駅西口広場

大通りの裏には古くからの街並みも残り、東京タワーや増上寺などの観光名所や、都立・港区立芝公園、旧芝離宮恩賜庭園といった豊かな緑も特徴的です。
海の玄関口である竹芝ふ頭もあります。
竹芝や虎ノ門などでは大規模な開発が進み、東京メトロ日比谷線に「虎ノ門ヒルズ駅」も開業しました。



東京ポートシティ竹芝

地域の人たちが描いた 2040 年代のまちの姿

二次元 Code

人と人とのつながりを大切にする心やすらげるまち
―誰からも愛されるまち―

子育て・教育・福祉
・国際色豊かな文化と歴史の活用
・まちぐるみで子育てができる場づくり
・AI の利便性と直接人と触れ合うことの融合

環境・街づくり
・シビックプライド
・自然と調和、美しい街並み
・誰にでもやさしいまちづくり
・ごみ問題とマナーの向上

コミュニティ
・心やすらげるようなまち
・人と人とのつながり
・顔の見える関係づくり

防災
・日常的な安全確保
・大災害への備えとリスク認識



芝地区ならではの取組

二次元 Code

芝　歴史・文化・交流アカデミー
～歩く・見る・学ぶ「芝」～

芝地区区民参画組織「芝会議」の「まちの魅力発掘部会」が芝地区の魅力を発掘・発信・創造しています。
部会メンバーによる「芝の語り部」がガイドする多彩なまち歩きツアーや歴史講座などを通じて、芝地区の歴史・文化、自然などの魅力を広く内外に発信しています。

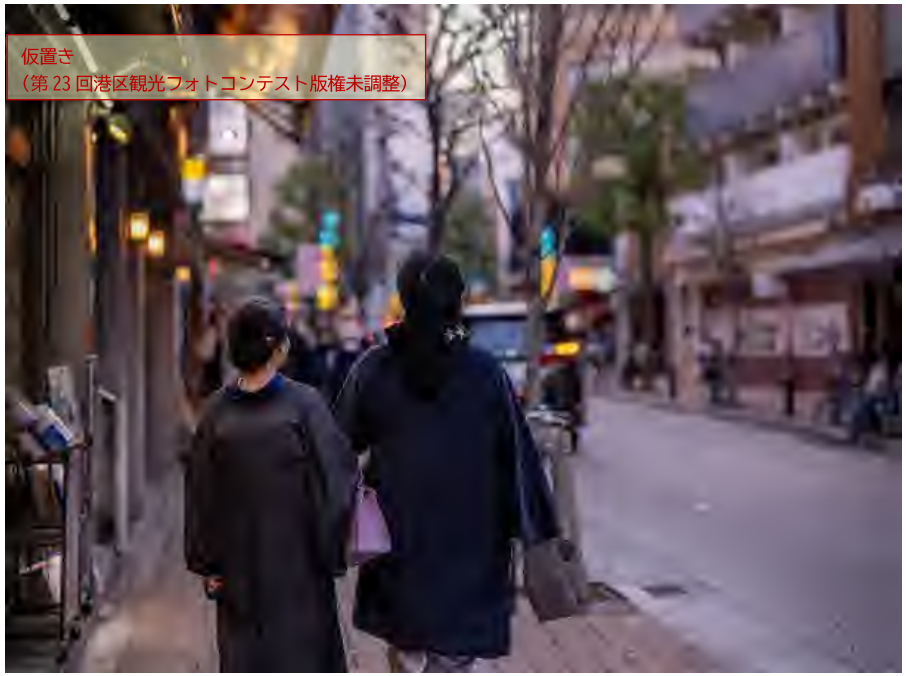




区民協働による養蜂事業
芝 BeeBee’s プロジェクト

区民協働によるミツバチの飼育をとおして環境について学ぶ機会を創出するとともに、多世代交流推進を目的とした養蜂事業です。
地域で飼育し採取したはちみつを特産品として販売。
新たな芝地区の魅力を発信しています。

麻布地区



麻布十番商店街

麻布地区は、坂の多いまちです。
かつては寺町や武家屋敷が建ち並んでいた地域で、昔の大名屋敷である港区立有栖川宮記念公園など、当時の面影が残されています。
国立新美術館など、歴史と文化、芸術資源が豊富です。

区内にある大使館の半数以上が麻布地区にあり、外資系企業が集まる国際都市の一面も持ちます。
閑静な住宅街のほか、地域に密着した工場、商業、繁華街など、多様な顔があります。
5 つの幹線道路が走り、東京メトロの「六本木駅」や「広尾駅」、「麻布十番駅」などの地下鉄網が形成されています。



国立新美術館



六本木ヒルズ盆踊り

地域の人たちが描いた 2040 年代のまちの姿

二次元 Code

互いに助け合い、誰もが情報から取り残されない、安全・安心なコミュニティのまち

子育て・教育・福祉
- デジタルデバイド解消と多文化対応の強化
- 移動支援と公共交通の未来像
- 地域資源を生かした学びと特性ある文化の継承

防災・安全安心
- 既存団体間の連携強化と参加型活動の推進
- 災害時における正確な情報統制と拠点明確化

自然と都市の共生
- マナー向上と外国人対応を含む環境整備
- 住民自身が楽しみ、愛着を持てるアート、文化の活用
- ヒートアイランド対策と公共空間の快適性向上

コミュニティ
- 参加促進のためのインセンティブ設計と仕組みづくり
- 外国人住民向け包摂活動の展開
- 趣味・テーマを軸とした多世代交流の場の創出



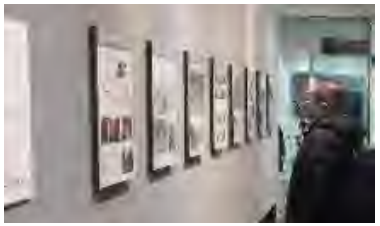
麻布地区ならではの取組

二次元 Code

地域事業活性化プロジェクト

坂の名前や歴史をヒントに、坂をテーマにしたオリジナルカレー開発する麻布坂カレーや、麻布地区の文化資源や魅力的な景観をモチーフにした麻布街ガチャなどをとおして、麻布地区の多様な情報を発信しています。





麻布地域の魅力伝承事業「あざぶら部」
麻布未来写真館～次世代へつなぐ麻布の記憶～

麻布地区の歴史やまちの移り変わりを写真で保存・発信することや、歴史や文化などの魅力を次世代に語り伝えることで、区民などが地域に関心や愛着を持てるようになることを目的とした取組です。

赤坂地区



赤坂氷川祭

赤坂地域は、江戸以来多くの歴史人物や寺社に彩られ、明治以降は皇室施設や軍用地へと変遷を経ました。
江戸城の外堀であった溜池の埋立て後は料亭や商店が並ぶ華やかなまちとなり、利便性から人々が集住する地域へ発展しました。
青山地域は、江戸期に青山家の屋敷地として発展し、明治以降は霊園や軍・教育施設へと転用されました。



神宮外苑いちょう並木

現在は美術館やブランド店が並ぶ洗練された街並みの一方、閑静な住宅地など多様な特徴を持つ地域となっています。
戦後は、1964 年の東京オリンピック・パラリンピックにより、青山通りの拡張などの道路整備が進められ、戦後復興、高度経済成長を経て、街並みは大きな変化を遂げ、今では日本を支えるまちとなっています。



秩父宮ラグビー場

地域の人たちが描いた 2040 年代のまちの姿

二次元 Code

誰もが住み続けたいと思える街
―緑の多い人にやさしい国際都市―

・広い年代で語り合い、未来を紡ぐ対話

・バリアフリーの推進と安全・
安心の街づくり

・赤坂、青山独自ブランド
創出と企業・地域の連携

・多様性に対応した防災・安全への配慮
・自助、“協”助、公助

・全員参加の子育て、教育、
将来の国際人を育む

・伝統とデジタルの共生

・支え合う福祉の充実
・個性を尊重し、共に発展
・世代や国籍を問わない、
多様性を認め合うコミュニティの形成

・住み続けたいと思える街
・緑豊かで、アメンボが生息する自然共生型の街



赤坂地区ならではの取組

二次元 Code

子ども地域間交流事業
～離れていても心は１つ～

全国連携によるお互いのまちの発展と子どもの健全育成のため、岐阜県郡上市、和歌山県和歌山市と子どもを中心とした交流事業を実施しています。





赤坂・青山でつながり隊

赤坂・青山地域で活動する町会・自治会などのつながりを深め、情報や機械、資源を分かり合える交流イベントを実施しています。

高輪地区



高輪地区内のまつり

高輪地区は、西は渋谷区、南は品川区に隣接した位置にあります。
江戸の南の玄関口として、「高輪大木戸」が設けられ、治安維持と交通規制に重要な役割を担っていました。
国立科学博物館附属自然教育園など、今も武蔵野の貴重な自然が息づき、起伏に富んだ地形の中に、赤穂義士で有名な泉岳寺や三田の寺町など歴史的な街並みが残っています。

戸建住宅が多く、5 地区の中で人口が最も多い地区です。
JR 山手線田町駅と品川駅間におよそ半世紀ぶりの新駅となる「高輪ゲートウェイ駅」が開業したほか、リニア中央新幹線の品川駅開業も計画され、さらなる飛躍と可能性を持ったエリアです。





TAKANAWA GATEWAY CITY

地域の人たちが描いた 2040 年代のまちの姿

二次元 Code

人・自然・歴史がつながり、
学び・楽しさ・安心をはぐくむまち、高輪

全世代がつながり、
歴史と未来が共存する高輪
・寺子屋のような全世代交流
・歴史を生かした未来づくり
・みんなが主役・みんながハッピー
・みんなで関わる長屋風の子育てや助け合い

みどりを楽しめる高輪
・みどりを守り育て、街を楽しむ
・今と昔が調和し、変化に耐えうるまち

安全・安心な高輪
・みんながマナーやルールを守っている
・双方向コミュニティ
・幼児から高齢者まで安全に歩ける
・日本人が外国人と安心して暮らせる



高輪地区ならではの取組

二次元 Code

町会・自治会・マンション交流活性化プロジェクト
～地域がつながる　たかな輪コミュニティ～

町会・自治会の担い手となる区民を育成する講座や、役員との顔合わせ、イベントへの担い手派遣を通じて、マンション居住者と地域活動が円滑につながる事業を実施しています。





私が語る高輪今昔物語

区民参画メンバーが高輪地区の過去や現在の写真をもとに「今昔物語」を作成し、出前講座やまち歩き、動画配信などにより、高輪地区の歴史的・文化的魅力を地域の内外に広く発信しています。

芝浦港南地区



お台場海浜公園

芝浦港南地区は、その大半が明治期以降の埋立てによりできた若いまちです。
大規模マンションの建設などにより、人口の増加が予測されている中で、イベントや地域活動などを通して新旧住民同士の交流が活発に行われています。

地区内を芝浦運河や高浜運河などが縦横に走り、その運河を、汐彩橋、御楯橋などの多数の橋りょうが結び、ライトアップを進めています。
レインボーブリッジの近くには、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の会場となった都立お台場海浜公園や東京アクアシンフォニーがあり、国内のみならず世界からたくさんの人が集まる地域です。



伝統文化交流館



御楯橋の橋梁ライトアップ

地域の人たちが描いた 2040 年代のまちの姿

二次元 Code

思いやりが循環する、誰もが安心して暮らせる彩りと潤いあるまち ―水辺のホームタウンの実現―

子ども・高齢者
・子どもたちの笑い声がひびくまち
・やさしさにあふれるまち
・愛のある声かけ
・高齢者がいきいきと輝けるまち

水辺
・多様な人が集まる
・にぎわいとくつろぎ
・地域一体

コミュニティ
・井戸端会議ができる
・地域愛にあふれる

まちづくり
・昼夜問わず安全・安心・快適に歩ける
・My City Report や防災ラジオの活用
・災害時の自助、共助の意識向上



芝浦港南地区ならではの取組

二次元 Code

みずまちプロデュース事業

区民との協働により、地域の魅力を一層高めるために、まち歩きなどのイベントを開催しています
イベントを通じて、水辺の魅力を発見・体験することで、水辺への愛着と理解を深めます。





歴史と文化がつなぐ地域交流事業

秋田県にかほ市、福島県柳津町とのつながりを生かし、子どもたちをはじめとした住民同士がお互いの地域を訪れるなど、文化や歴史にふれる機会を提供しています。
互いの地域の魅力や歴史を理解し、相互の魅力をＰＲすることにより、相互の地域発展をめざし、交流しています。

3　明るい未来を切り開くために
2040 年代を見据える

社会変化を先読みし、課題を乗り越える

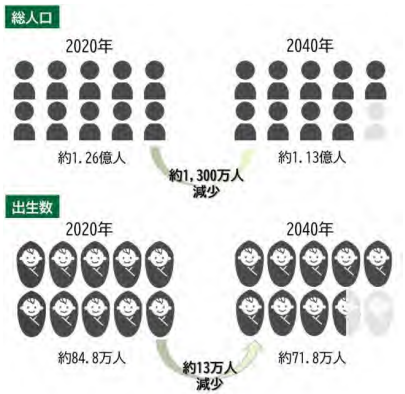
社会は日々刻々と変化を続けています。
港区の良さを守りながら、これまで以上に住みやすいまちへと発展させ、さらなる未来へとつないでいくために、2040 年代という時代を見通します。

2040 年問題：日本は人口が急速に減少し、社会の構造的課題が顕在化

総務省の「自治体戦略 2040 構想研究会」は、平成 30(2018)年に取りまとめた報告において、人口減少や高齢化の進行により、2040 年頃には医療・介護需要の増大、人手不足や税収減、インフラ老朽化など、日本社会において構造的な課題が顕在化すると指摘しました。

2040 年の日本の総人口は 2020 年比で約 9 割に減少し、出生数も減少が見込まれるなど、人口構造の大きな変化が想定されています。

団塊ジュニア世代が 65 歳を迎えることや、生産年齢人口の減少が加速することを背景に、介護ニーズの増加や労働力不足などの課題が生じることが見込まれます。





想定される課題の例

- ✓ 介護ニーズが増加する。
- ✓ 若者、女性、高齢者の労働市場への参加が進まない場合、労働力人口は大きく減少する。
- ✓ 介護、看護、保育、建設、運輸などの分野では、将来的にも労働力不足が見込まれる。

こうした課題は将来を待たず、すでに令和 6(2024)年には全国の出生数が初めて 70 万人を下回り、その後も過去最少を更新するなど、人口減少の加速という形で現実の社会に現れ始めています。

▸2040 年という社会の大きな転換点を見据え、人口構造の変化や社会環境の変化に着実に対応していくことが必要

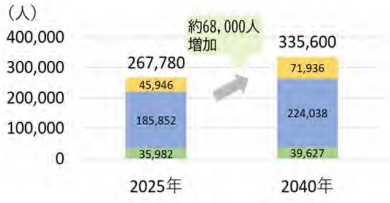
※2020 年の人口構成比について、生産年齢人口 59.5%、高齢者人口 28.6%
※2040 年の人口構成比について、生産年齢人口 55.1%、高齢者人口 34.8%
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和 5(2023)年推計)」(令和 5(2023)年 8 月)、
総務省「自治体戦略 2040 構想研究会 第一次報告」(平成 30(2018)年 4 月) を基に作成

港区：人口増加の一方で、高齢者人口の比率が増加

日本全体では人口減少が進展すると予測される一方で、港区では当面の間、人口増加が続くことが見込まれます。

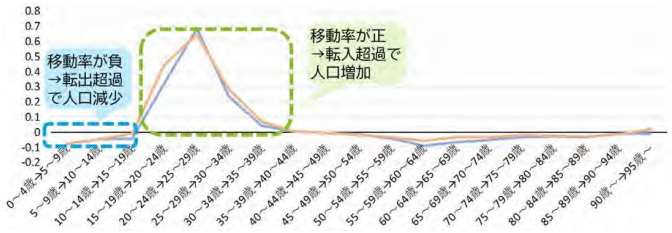
令和 8(2026)年時点で約 27 万人の人口は、2040 年には約 33 万 6 千人、2050 年には約 37 万 2 千人に達すると見込まれています。

生産年齢人口の伸びを上回る水準で高齢者人口が増加し、2040 年には高齢者 1 人に対して生産年齢人口は約 3.1 人まで低下することが見込まれます。





人口増加の要因として、主に 20 歳代・30 歳代において、転入者数が転出者数を上回る転入超過が続くことが挙げられます。



▸日本全体の社会構造の変化を見据えつつ、港区における人口増加の特性を踏まえた政策展開が不可欠

二次元 Code
港区人口将来予測▸

出典：港区政策創造研究所「港区人口将来予測　令和 7（2025）年度改定版」(令和 7(2025)年 7 月)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口　令和 5(2023)年推計」(令和 5(2023)年 12 月)を基に作成

2040 年代の潮流を展望

国や東京都などの動向を踏まえ、「経済」「社会」「環境」を切り口として、2040 年代に向けた日本社会の潮流を予測しました。

経済：イノベーションが社会を変革、働き方はより多様で自由に

AI や IoT、ロボットなど、様々な技術が進歩し、イノベーションの創出を通じた社会課題の解決が期待されます。



Society 5.0 の実現
AI や IoT、ビッグデータ、ロボットなどの技術の進展により、サイバー空間とフィジカル(現実)空間の融合が進み、社会課題の解決へとつながる新たな社会へと変化していきます。

テクノロジーの進展
自動車の完全自動運転化や遠隔医療の高度化、無人店舗、VR などの普及により、人々の快適で利便性の高い暮らしの実現が期待されています。





スタートアップ・エコシステムの強化
東京ではスタートアップの集積が進み、たくさんの起業家や企業が活動する中で、持続的にイノベーションが創出されるエコシステムの形成が進展していきます。

高齢者の就労や副業・兼業の進展などにより、働き方の多様性が一層進展することが見込まれます。

リニア中央新幹線の開業
東京・名古屋・大阪間の移動時間が大幅に短縮され、三大都市圏をまたぐ人の流れが活発化することで、暮らし方や働き方、企業活動が多様化していきます。





就労・社会参画の多様化
70 歳までの就業機会の確保などが進む中、高齢者をはじめとした多様な人材が意欲や能力に応じて社会に参画し、長期にわたり担い手として活躍する社会の実現が見込まれます。

副業・兼業の進展
副業・兼業は、新たな技術の開発やオープンイノベーションの推進、起業の手段や第 2 の人生に向けた準備として活用が進み、多様な働き方の実現や人材の活躍機会の拡大が期待されます。



出典：内閣府ホームページ「Society 5.0 とは」、消費者庁「消費生活の未来に関する調査報告書」（令和 6(2024)年 4 月）、内閣府「スタートアップ・エコシステムの現状と課題」（令和 4(2022)年 2 月）、国土交通省・国土審議会計画部会「資料 5　スーパー・メガリージョンの形成」（第 8 回国土審議会計画部会配付資料・令和 4(2022)年 4 月 4 日）、厚生労働省ホームページ「2040 年を展望した社会保障・働き方改革について」、「副業・兼業の促進に関するガイドライン」（令和 4(2022)年 7 月改定）を基に作成
画像：国土交通省ホームページ、東京都職員採用ページ

社会：地域共生社会に向けた取組が進展、より安全・安心な社会へ

人生 100 年時代の到来が見込まれる中で、地域で支え合い、誰もが活躍できる社会や、子どもや若者が幸せに暮らせる社会の実現が進むことが期待されています。



地域共生社会の実現
地域社会において、誰もが役割と生きがいを持ち、互いに支え、支えられる関係の循環が実現し、幅広い関係者の協働により地域社会の持続的な発展が期待されます。

健康寿命の延伸
健康的な生活習慣づくりや疾病予防・重症化予防、介護予防、フレイル対策、認知症予防などの取組が進むことで、人々の健康寿命の延伸が見込まれます。





こどもまんなか社会の実現
全ての子ども・若者が身体的・精神的・社会的に健やかに成長し、安心して自分らしく生活することができる社会の実現が期待されています。

新たな社会を支える人材の育成
主体性やリーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなど、新たな社会で活躍する資質や能力を備えた人材の育成が進んでいきます。



今後想定される災害や新たな犯罪形態を見据えた防災・防犯体制の整備が進められていきます。



防災・減災、国土強靱化による「安全・安心な国土」の実現
一人ひとりが防災・減災を自らの課題としてとらえ、災害に備える取組が日常的に行われる地域社会の実現が期待され、地域全体での防災力の向上が見込まれます。

新たな治安課題への対応
社会の変化に伴う新たな治安課題に対応するため、人材の確保や育成、広報・啓発の強化が進み、地域全体で人々の安全を守る体制づくりが進んでいきます。



出典：厚生労働省ホームページ「地域共生社会の推進」、「2040 年を展望した社会保障・働き方改革について」、こども家庭庁「こども大綱」（令和 5(2023)年 12 月）、文部科学省「教育振興基本計画」（令和 5(2023)年 6 月）、国土交通省「国土形成計画（全国計画）」（令和 5(2023)年 7 月）、警察庁「令和 7 年警察白書」（令和 7(2025)年 7 月）を基に作成
画像：国土交通省ホームページ、東京都職員採用ページ、文部科学省ホームページ、東京都「2050 東京戦略」（令和 7(2025)年 3 月）

環境：ゼロカーボンが進展、自然と共生する社会へ

2050 年のカーボンニュートラル実現をめざし、温室効果ガス排出量の削減に向けた取組が一層進展することが期待されています。



再生可能エネルギーの拡大
発電電力量のうち、再生可能エネルギーによる供給の割合が高まることで、脱炭素型のエネルギー社会の実現が進むことが期待されています。

水素の普及
水素はクリーンなエネルギーとして、発電や自動車、鉄道など、幅広い分野での活用が進み、エネルギー構造の転換や二酸化炭素排出量の削減につながると見込まれています。





グリーンインフラの推進
自然環境が有する多様な機能の活用が進み、防災・減災や気候変動への適応、生物多様性などに資する取組が推進されることで、「自然共生社会」の実現が期待されています。

ZEB の推進
建築物において ZEB 基準の省エネルギー性能の確保や再生エネルギーの活用などが進み、環境負荷の低い、持続可能で環境にやさしいまちづくりの進展が見込まれています。



従来の「環境活動としての 3R」から、資源の循環を経済成長につなげる「経済活動(サーキュラーエコノミー)」への転換が進むことが見込まれます。



サーキュラーエコノミー(循環経済)の推進
限りある資源を消費し続ける「一方通行型」の経済活動から、廃棄物を資源として再活用し、新たな付加価値を生む「循環経済」への移行が進み、経済の持続的な発展が見込まれます。

プラスチック対策の進展
使い捨てプラスチックの削減や廃プラスチックの高度処理によるリサイクルの取組が進むことで、海洋へのプラスチック流出の抑制や循環型の資源利用への転換が見込まれます。



出典：資源エネルギー庁「エネルギー基本計画の概要」（令和 7(2025)年 2 月）、資源エネルギー庁ホームページ「エネこれ」、国土交通省「グリーンインフラ推進戦略 2030」（令和 8(2026)年 1 月）、環境省 ZEB 説明会「2050 年に向けたカーボンニュートラル政策における ZEB の役割について」（「ZEB 説明会「基本編」」発表資料・令和 6(2024)年 10 月）、環境省「令和 8 年版環境・循環型社会・生物多様性白書」（令和 8(2026)年 6 月）、東京都「ゼロエミッション東京戦略 Beyond カーボンハーフ」（令和 7(2025)年 3 月）を基に作成
画像：資源エネルギー庁ホームページ「エネこれ」

4　2040 年代に向けた「政策」